

平成29年度福岡市食育推進会議 議事録

1. 日時：平成29年8月28日（月）10：30～11：30

2. 会場：エルガーラホール7階 多目的ホール

3. 会議次第

- | |
|--|
| <p>(1) 開会</p> <p>(2) 議題
第3次福岡市食育推進計画の進捗状況について</p> <p>(3) 報告
特色ある食育の取組みについて</p> <p>(4) 閉会</p> |
|--|

4. 出席委員：20名

5. 報道機関取材者及び傍聴者
報道機関：無 傍聴者：無

6. 議事内容

事務局	<p>【議題：第3次福岡市食育推進計画の進捗状況について】 第3次福岡市食育推進計画における具体的な目標値ごとに説明。</p> <p>*質問・意見なし</p>
事務局	<p>【報告：特色ある食育の取組みについて】 若い世代を対象とした取組み例について報告。</p>
委員	<p>小学生の朝食を欠食する割合が増えているが、これについて市としてはどのように認識しているか、また今後どのように取組みを行っていくのか。</p> <p>若い世代（大学生）は比較的キャッチしやすいが、小学生を</p>

事務局	<p>持つご両親にどのように啓発していくのか。この数値をどのように認識しているのか、どのように対策していくのか伺いたい。</p> <p>今回の欠食率の調査結果については、小学校の方が悪くなり、中学校が良くなっているが、結果にばらつきが出ている状況。単年でみると、良かったり悪かったりを繰り返している。全体的には、小学校、中学校も徐々に悪くなっている状況であり、欠食している理由については、一番は「食べる時間がない」が約4割、「食欲がない」が約3割、この2つの理由で7割の子供たちが食べていないということが分かっている。現在、今後の取組みについては、家庭向けには学校に配置している栄養教諭からおたより等で朝食の大切さを伝えたり、こども達には、朝食の大切さを授業で伝えたりしているが、なかなか家庭の方に伝えたものが結果として出てきていない。</p> <p>今後の取組みについては、これまでは、アンケート調査を無記名で実施してきたが、この方法だと全体の概要は把握できるが、個別の状況がつかめない状況にある。そのため、今年度より小学校5年生限定になるが、記名式でアンケート調査を実施するようにした。アンケート結果をもとに個別にアプローチしていくことが必要ということで取組みを始めているところである。</p>
委員	<p>すばらしい取組みであり、こどもの貧困や今報告に上がった要因の分析は大切であるが、海外も同じ状況であると思う。海外ではどのような取組みを行っているかを分析することも大事である。教育の貧困の前に食の貧困といったものが、こどもの貧困を再生産していくことにつながるため、どこかで切らなければならない。ご検討を宜しくお願ひしたい。</p>
委員	<p>昨年、こども未来局が小学校6年生と中学校3年生の保護者約2万5千人、全保護者対象にこどもの生活実態調査を行っていると思う。その中には親の食も含めて、こどもの食のことも聞いているが、その集計結果を見ると、もっと悪い。平日の朝食を毎日食べていないこどもが、約6%、特に一</p>

事務局	<p>人親世帯は約13%が毎日は食べていないという事が明らかになっている。学校の多忙化もあって、調査依頼が非常に多い。各局で同じような調査をするようであれば、まとめて窓口を作って各局と連携して行う方が良いと思う。こどもに直接聞く方法もあると思うが、こども未来局の調査は保護者に聞いているので、信憑性は高いと思うし、調査のあり方も検討する必要があると思う。</p> <p>こども未来局の調査結果をみると、朝食がお菓子やカップラーメンが増えてきている。教育委員会が調べたときの朝食がこども達に対してどのようなイメージがあるのか、朝食をどのようにとらえた調査をされたのか教えて頂きたい。</p> <p>朝食の調査の内容については、「実際にどのようなものを食べたか」ということをこども達に記入させている。アンケート調査票に、ごはん・パン・牛乳・お茶・チーズ、さまざまなメニューを掲載し、これにあてはまらなければ、それ以外の食べ物を書く欄を設けている。実際に食べたものを記入させて、内容を確認するようにしている。</p> <p>単に食べている、食べていないだけでなく、食べている内容についても確認しながら今後の指導に活かしていきたいと考えている。</p> <p>同じような調査が重複していることに対する配慮については、朝食調査は教育委員会給食運営課で行っているが、学習到達度調査を別の課で行っており、朝食と学力の関係を調査するといったものもあるので、今後は集約した形で、数を減らし、学校の多忙化にも対応しながら進めているところである。</p>
委員	<p>配布されている資料1（第3次福岡市食育推進計画の具体的な目標値一覧）の直近値と目標値を比較すると目標値を超えているところもあり、行政当局のご努力の反映だと評価したい。いくつか色つき（策定の時より改善した項目）のない部分で小学生の朝食の欠食が話題になっているが、同時に「学校給食の福岡産のものを積極的に利用している」の項目にて、「⑮学校給食における市内産農林水産物利用割合（野菜主要品目）」が31%から2%減少しており、目標値を達成してい</p>

事務局	<p>ない。</p> <p>学校給食は優れた公の行為で、このことが我々市民や青少年の健康に及ぼす影響は大きい。行政当局もこれに力を入れていると思うが、行政当局の方向性がしっかりしていれば、学校給食センターやその他の機関等に影響がおよんでいき、こういう数値にならないのではないかと。非難してはいるわけではなく、天変地異やその他の影響があるのか、お聞きしたい。</p> <p>平成28年度の利用割合が減少したのは、昨年9月中旬の台風、長雨の影響により野菜の生育状態が非常に悪く、学校給食へ供給できる量が減ったことが原因である。学校給食への野菜の活用については、市内産農産物学校給食活用協議会において定期的に意見交換をしながら、今後とも市内産農産物の更なる学校給食への活用にむけて、努めていきたい。</p>
委員	<p>福岡市は人口が150万人を超え、その中で市内産の食料で市民をまかなえる量というのは5.5%しかないため、現実的に絶対量はない。県産、九州産といったたくさんの産地により、十分に量自体は足りてはいるが、市内産だけでまかなうことは不可能である。</p> <p>29.6%の数値に関しては、行政が学校給食に取り入れて頂いているとみている。生産者がもっと量を作るように努力をしていかなければならない。</p> <p>別の案件になるが、下の「㊸ふくおかさん家のうまかもん優先利用事業者」登録数の数字であるが、数値はよいがこういった形で市内産をどんどん使っていこう取組みを高島市長が取り組んで頂いたのは大変うれしいことである。</p> <p>聞いた話で真実かは分からないが、韓国でも学校給食に地元農産物を使おうという取組みを行っているが、韓国とアメリカのFTA条約において、公正で自由な商取引を阻害するといった理由から、ISD条項で訴えられる可能性があるということで、地元産を使うという運動をやめたとの話も聞く。</p> <p>グローバル化の中、将来どのような時代が来るか分からないので、こういった情報も認識しておいた方がよいのではないかと。</p>

委員	朝食の必要性は分かるが、食べる時間など朝食の定義というものがあれば、教えていただきたい。
事務局	<p>朝起きて何時間までにという規定は設けていないが、スライド資料①のスライド番号⑥（朝食を欠食している市民の割合（20～30歳代））の参考項目として「朝食を食べる定義」を掲載している。</p> <p>「朝食を食べる」の定義 エネルギー源となる食べ物、飲み物を飲食した場合。（砂糖・ミルクを加えないお茶類、水及び錠剤・カプセル・顆粒状のビタミン・ミネラルしかとらない場合は「朝食を食べた」とは言わない。）</p> <p>これについては、国が行っている国民健康・栄養調査や他の調査もこの定義で行っており、合わせて考えている。朝食という考えがこれでよいのかという部分もあるが、ほかの調査と合わせるということで、この定義に基づいて行っている。</p>
委員	<p>給食に関して、市内産の農作物がなぜ増えていかないのかということを前回の会議でも尋ねた。</p> <p>給食センターで使用する場合、野菜の皮むきは機械で行うため、ある程度規格が統一されたものが求められていることが、福岡市産で大量に供給できないという一番の課題とされてきている。生産者側からみると、規格を統一されていて状態が良いものを学校給食のために、頑張って安く供給しないといけない事情がある。水産物も同じ事がいえる。地産地消を推進しなければならないが、お子さんたちに安く食べてもらうという必須の条件の中で頑張ろうとすると、どうしても生産者の方はかなり無理を言わなければやっていけない状況にある。数字を伸ばしていくためには、食材の調達のところでも相当な工夫が必要である。また、地産地消をやっていくためには、もう少しそちらの方にお金をかけられるような調達の考え方になっていかないとここの数字は伸びてこないのではと思う。現実的に何か考えがあれば、伺いたい。</p>

事務局	<p>小学校で8万食，中学校で4万合わせて12万食提供している。食材にばらつきがあると，その日に調理して出すという事が非常に難しいことがあり，ある程度の規格をそろえて頂いている。中学校，特別支援学校においては，新しい給食センターの整備を行っており，新しい施設では食材のばらつきにも対応しているところである。</p> <p>水産物に関しては，これまで地元の魚が使えてなかったが，現在漁港の関係者や仲卸の業者と話し，中学校で4万食が必要となってくるため，その一部だけでも始められないかということで相談しているところであり，実現にむけて取組みを行っている。</p> <p style="text-align: right;">(議事終了)</p>
-----	--